10月15日（水）13:00~　＠C2

文責：神山

案の１つとして・・・

チャータースクール

　　アメリカの事例を先にみる→日本へ…？

そもそも問題となるのはなんだろう？

“塾に行きたいけど行けない子”　—　－　→公教育からのサポート？？

　考えられる理由

　・お金がない　　　←　家庭の経済的要因　　　　　　→やるとしたらこれ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　→通塾の必要性が競争に備えるためなら

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　国の経済的支援は正当でない

　・近くに塾がない　←　都市部じゃない、地域による　→大きな問題だが、扱いきれない

　・親の理解がない　←　親に学校外教育の経験ない　　→　GPではどうしようもない…

　　　　　　　　　　　　教育投資をしようとしない

・公教育だけでは最低限の学力が保証できないとしたら、それは問題

・＋αで通うならそれは自由

・なぜ塾に通うのか？私学は？

・競争をするには通塾：最低限＋α

・公教育では保証されているが、選抜があるから塾　→格差

　最低限の保障と選抜の支援はちがう

・そもそも連携できる？　学校・教育をよくするため＜塾への勧誘

・公教育の意味

　塾ありき→こうした状況をうみだした公教育が問題なのでは？？

塾に行かないといけないと思ってしまうのは・・・

①成績があがらない

②受験情報

③中学受験は塾に行かないときつい

④勉強する場を求めて

⑤周りが皆行っている

⑥学校の授業に対する不信←☆全ての子の要望にそえない

⑦学校の授業だけだと大学受験できない

→公教育を考えるうえで重要だと思われるのは・・・

②⑦　教師による進路指導

①　補習指導

⇒解決として塾との連携

教育の画一性　と　多様性…国と民衆の齟齬？

　　　　　　↓　　　　　↑私教育でカバー

公教育で保障されてる――

公教育の多様性→アメリカのチャータースクール

　　　　　　　　カナダとかの多文化教育△

HOMEWORK

・最低限は公教育で保証されているのか？

・学力に対応するという意味での「多様性」はできていない？

・公教育への不満（全ての子の要望・ニーズにそえない）の資料

・国は公教育の多様性をどう捉えるのか？

　（画一性の先で様々な要望をどのように教育に反映しようとしているか？）

→中丸・山見

・チャータースクールとはなにか？

　（アメリカのチャータースクールと日本にいれようとしてるチャータースクールの違い）

→池田（米）神山（日）

・アメリカでチャータースクールが誕生した歴史的・社会的背景

　（チャータースクールは「公教育の多様性」を背景としてできたのか？）

→寺尾（日）野川（米）